

海賊行為等による被害事例（2004年）
我が国関係船舶について報告されている事例（参考例）

【事例1】

航海中に襲撃を受けた例

2003年までは港の沖待ち等で錨泊中又は停泊中の船舶に小型ボートで接近し、錨の鎖を上って侵入するケースが多く見られましたが、2004年に発生した事案のうち**4件が航海中に発生**（2003年は12件中3件）しています。

夜間航海中、刀を所持した賊7～8名が侵入した。操舵室を制圧後、無線室、機関長室、船長室等を襲撃し、金品を強奪した。その後、賊は乗組員全員を操舵室に集め、船長をワイヤーで縛り、船尾からボートで逃走した。

【事例2】

銃撃を受けた例

船名不明の小型ボートに停船を命じられ、賊は約30分間にわたり**自動小銃を乱射**した。本船が小型ボートと無線交信を試みたところ、襲撃は中止されたが、船体に**銃撃された痕**が認められた。乗組員に被害はなかった。

【事例3】

日中に襲撃を受けた例

被害は、夜間に発生しているものが多くを占めています。しかし、錨泊中の船に**日中に賊が忍び込んだ事案**が発生しました。

岸壁待ちのため、錨泊中、一等航海士と甲板長が甲板を見回っていたところ、4名の賊を発見した。長刀で武装した賊が一等航海士に襲いかかろうとしたため、一等航海士と甲板長は大声をあげながら退散しようとしたところ、それを聞きつけた他の乗組員が駆けつけ、賊はボートに乗り移り逃走した。その後の点検で予備品ロッカーの錠が壊され、予備品数点がなくなっているのが判明した。乗組員に被害はなかった。

【事例4】

錨泊中に襲撃され縛られた事例

夜間錨泊中、長短ナイフで武装した賊6名が錨の鎖を伝って船首部に侵入した。賊は所持していた道具で予備品庫の鍵を破壊し、内部へ侵入したが、見回りに来た当直者に発見された。**当直者は賊に縛られ、所持品を強奪された。**賊はさらに予備品庫の船用品を奪いボートで逃走した。乗組員に被害はなかった。